

# 道徳の指導ができる教員を育成するための 「大学における指導及び教育委員会における初任者研修の在り方」に関する研究

所属校：多摩市立東寺方小学校  
氏名：山口 起世子  
派遣先：東京学芸大学教職大学院

キーワード：道徳の時間・若手教員育成・大学の指導・初任者研修

## I 研究の目的

### 1 研究課題を巡る状況

#### (1) 新規教員の大量採用

東京都教員人材育成基本方針（平成20年10月策定）では、「いわゆる団塊の世代の大量退職に伴い、若手教員が大量採用されるため、校種によっては学校組織の年齢構成も若手教員が半数以上を占める状況が生じつつある。先輩教員が少なくなる中、職場で先輩教員にもまれながら身に付けてきた教員としての指導力や指導法の継承は難しくなっている。若手教員が実力ある教師として成長していくためには、校内におけるコミュニケーションが十分に取られて、相互に支え合い、高め合う環境の中で、意図的・計画的な人材育成が行われる体制を早急に整える必要がある。」と新規に採用された教員の育成が強調されている。

#### (2) 道徳教育に関する調査

文部科学省が行っている「道徳教育推進状況調査結果（平成15年度）」では、公立学校が行う年間の道徳の時間数が、小学校で35.3時間、中学校で33.6時間、ほぼ100%実施しており、また、道徳教育に関する校内研修も80%の学校が実施しているとの結果が出ている。これは東京都も同様の結果が出ている。

こうした「学校における道徳教育が充実している」という調査結果の一方、文部科学省が毎年行っている「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」では、いじめ、不登校、暴力行為、自殺などの行為が依然として高い数値を示し、憂慮される実態にある。また、「東京都の心の東京革命を推進していくための施策」や「都民の教育に関する意識調査」などにおいても、学校における道徳教育の充実が強く訴えられている。

#### (3) 校内における初任者研修の実施状況

各教育委員会が定めている初任者研修実施要領等には、校内における研修として、「研修は、校内研修及び校外研修をもって構成し、主として、基礎

的素養、学級経営、教科指導、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、生徒指導、特別支援教育等について指導を行うこと」と、道徳の指導についても明確に示されているが、その内容や方法、指導時数などは、計画時においても、実施報告時においても明らかにされていないことが多い。

#### (4) 大学（教員養成学部等）における道徳教育の状況

文部科学省は、平成16年度より、「道徳教育の充実のための教員養成学部等との連携研究事業」を開始し、「教育委員会と大学の教員養成学部等とが連携して、教員養成段階における道徳教育のための連携を生かしたカリキュラムの充実方策」を事業目的の一つとして掲げ、教員養成段階での道徳教育の改善に力を入れ始めている。

## 2 課題の設定と目的

上記に示したような状況を踏まえるとともに、「大学における道徳の指導法に関する講義が必ずしも十分に行われていないのではないだろうか。」「教員に採用されてから行われる初任者研修での道徳に関する指導が十分ではないのだろうか。」の視点から、研究課題を、「道徳の指導ができる教員を育成するための大学における指導及び教育委員会における初任者研修の在り方に関する研究」と設定した。「大学における道徳の指導」や「教育委員会における初任者研修」について、調査と考察を行い、改善の方向をまとめることによって、大学や教育委員会における道徳教育の推進の一助となることを願っている。

## II 研究の方法

研究の目的を達成するために、自らの教職経験や教育実践を基盤に据え、次の諸点から具体的に取り組む。

### 1 大学における道徳の指導に関する調査・観察

・小学校や中学校の時の道徳に対する学生等の意識調査

この調査は、大学生等が小学校や中学校の時の「道

徳の時間」の指導を問うもの2件、大学での道徳の授業を問うもの1件である。

調査の対象は、a 東京学芸大学学部生2年生75名、b 同4年生32名、c 同教職大学院生(ストレートマスター)22名とした。

- ・大学における授業観察

## 2 教育委員会における初任者研修の観察

- ・教育委員会における初任者研修の観察と参加者からの聞き取り
- ・校内での初任者研修における道徳の指導についての観察と聞き取り

## 3 文献による研究、他大学の聴き取り等

- ・文献による研究
- ・他大学(教員養成)の道徳教育の聴き取り等

## III 研究の結果

《小・中学校での「道徳の時間」の内容に関する意識調査》

「道徳の時間はどんな授業でしたか」の問いに対して、次のような回答があった。(数字は回答数)

	小学校	中学校
テレビの視聴等	16	2
副読本を読んで話し合う活動	29	5
先生の話聞く	5	5
いじめや人権問題等	3	6
席替えなど道徳の活動以外に使われている	4	7
覚えていない、やっていない等		42
その他		4

これらのことを踏まえ、研究において以下の点について確認することができた。

### 1 道徳の指導ができる教員を育成するための大学における指導

#### (1) 授業の方法等

- ・模擬授業を多く取り入れ、発問や板書の工夫など、具体的な指導法を身につけるようにすること。
- ・きめ細かな指導やグループ活動ができるよう、1講座の受講生の数を50名以下にすること。
- ・授業を担当する教員同士が、「道徳の内容」や「指導方針」等について共通理解を図り、組織的・計画的に行うこと。
- ・学習指導要領に示された内容に則した授業展開をすること。
- ・実際的な授業を体感できるよう、学校で行っている授業観察を行ったり、授業場面を録画したビデオ等を多く取り入れたりすること。

- ・現職の教員から道徳の指導について話を聞く機会を積極的に取り入れること。

#### (2) 時期等

- ・免許法により、「道徳の指導法」2単位分が必修となっているが、学校における道徳教育の現状などを踏まえると4単位分必要であること。
- ・授業の時期は、教育実習を経験したあとや教員志望が明確になる、3年生後期あたりが望まれること。
- ・「道徳」に関心がある学生に対して、より幅広く、発展的に学習できるよう「選択科目」を設けること。

## 2 教育委員会における初任者研修の在り方

### (1) 校内における研修

- ・大学によって「道徳の指導法」の講義内容に差異があるので、校長は個々の初任者の状況を踏まえて、道徳教育のあり方や指導法を計画すること。
- ・道徳教育推進教師が中心となり、道徳の指導を組織的計画的に進めていくこと。
- ・ベテラン教員の授業観察を多く取り入れたり、指導主事による初任者の授業観察をしたりする機会をもつこと。
- ・指導主事等の指導を計画的に受けるようにすること。
- ・文部科学省が示した基準以上の指導を実施すること。

### (2) センター等における研修

- ・初任者研修の年間計画に道徳の授業観察など、実践的な研修を多く取り入れること。
- ・年度当初から道徳の指導ができるよう、1学期前半に「道徳」に関する研修内容を取り入れること。
- ・教員養成段階から教員研修までを見据えた初任者研修の計画を立てること。

## IV 考察

この課題研究を通して若手教員が、自分の小中学校の体験を基に「道徳の時間」を試行錯誤しながら行っている実態が分かった。4月からはスクールリーダーとして様々な機会に「道徳の時間」の授業実践を行ったり、若手教員の授業観察等で助言したりすることで「道徳の時間」に対する若手教員の不安の払拭に努めたい。新規教員の大量採用の時代に突入するなかで、若手教員が「道徳の時間」の意義を理解し、そして楽しく取り組めるためにもこの改善策が生かされるように行政や大学に働きかけていきたい。